

EVI協議会は環境先進県でもある高知県の様々な取り組みを視察しました。高知県木質資源エネルギー活用事業のひとつ未利用林地残材を粉砕して化石燃料の代替えを行っている住友大阪セメント株式会社高知工場を視察しました。セメントの生産だけではなく生ゴミや廃タイヤ、建築残材、汚泥など私たちの生活から排出されたさまざまなものを化石燃料の代替えとして活用していることでは社会のエネルギーサイクルインフラの一部を担っていると言えるかも知れません。

その後、四万十ひのきを使用した木製品の製造販売を行っている株式会社土佐龍の池社長を訪問。漁の網を絡めてしまう流木を集め商品としての価値を見だし東急ハンズに持ち込んだり、それまで細くて捨てられていた木片を癒し棒として製品化したりと、森はすべてを恵みに変えてくれる宝の山と話す、生活者の必要を満たすものを森の中から見出す玄人のような方でした。

次にセメント工場に未利用林地残材を搬出している四万十方式作業道現地を視察。地元の森林組合の皆さんに説明を受けながら効率よい7tトラックへの積み込みや間伐された森の様子を見学。続けて最新の方式による中土佐町四万十黒潮間伐推進プロジェクト(高知県J-VERプロジェクト)現地を視察。森の尾根と尾根にワイヤーを張り滑車を使って集積基地に伐採した間伐材を集めることで険しい森林からの効率的な搬出を可能にしている。

二日目は雪の森林セラピーロードを散策。ひのきチップの敷かれた道とわかりやすく説明されたサイン、ときおり霧水の青空からのこもれ陽にいやされるしばしの時間を満喫。その後、午前中は日本最後の清流、四万十源流点を踏査。全長196Kmと四国一の長さを誇り苔むした倒木や岩肌の間を縫うように流れる清水は、大河の源流と呼ぶに相応しい地点でした。

その後木製品ノベルティの企画制作を行っているギャリソンを訪問。間伐材を利用したiPhoneカバーなどとても質にこだわった製品がデザインされ、作業所をネットワークしてパッケージされWOODLUCKのコンセプトとも符合する点、これから協力関係を結びながら日本の未利用木材の有効利用や質の高い木材として海外への輸出も視野に。

こうして直にお会いしたみなさまの働きがますます高知県や四国、日本に波及し、私たちEVI協議会ともますます協力し合いながら日本の森と水と空気を守ることに繋がって参りますように頑張りたいと思います。



住友大阪セメント株式会社高知工場全景



木材は約4cm程度に粉砕され燃料に



森は宝の山と話す株式会社土佐龍の池社長



森林セラピーロードのサイン



森の尾根と尾根にワイヤーを張り滑車を使って集積基地に伐採した間伐材を集める



ノベルティの企画制作を行っているギャリソン